



「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2009

2:「ぼくたち、私たちにできること」ってなんだろう？

すべての人が読み書きできるためには1年に1兆円の援助が必要です。しかし、実際にはその半分(4600億円)しか援助されていません。

各国政府は、援助額をふやしたり、学費を無料にしたり、学校を卒業できなかった大人に教育機会を提供したりしています。

同時に、市民が中心となって活動するNGO(非政府組織)も様々な取り組みをしており、国内外でたくさん子どもたちが行動しています！

海外では

NGOの識字教室に通って自分の名前がかけられるようになったの。妹にもアルファベットや算数を教えてあげたわ！



写真1

(c)ブラン・ジャバン

日本では

世界の子どもの現状を学んで、読み書きできるのが当たり前ではないことに気づいたの。一方的な援助ではなくて、共に手を取り合って、行動していきたい！



写真4

(c)教育協力NGO ネットワーク(JNNE)

僕たち、子どもが中心になって演劇を通じて、村の大人に読み書きできることの大切さを伝えているよ！



写真2

(c)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

1071人の人の思いを嘆願書にまとめて、麻生外務大臣(当時)に嘆願書を渡して、世界中の子どもが学校に行けるようにアピールしたよ！



写真3

(c)教育協力NGO ネットワーク(JNNE)

2001年に「世界中の子どもに教育を」キャンペーンがスタートしてから、4000万人以上の子どもが学校に行けるようになりました。

キャンペーンには、毎年100カ国以上何百万もの人々が、世界中の子どもが教育を受けられるように参加しています。

さらに多くの人が読み書きができるようになるために、私たち一人ひとりが身近にできることをしてみませんか？